2017 年 6 月 30 日

岡山県感染症週報 2017 年 第 25 週（6 月 19 日 ～ 6 月 25 日）

◆2017 年　第 25 週（ 6 / 19 ～ 6 / 25 ）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 23 週　4 類感染症　日本紅斑熱　1 名（60 代　女）

第 24 週　3 類感染症　腸管出血性大腸菌感染症　1 名（O26：高校生　女）

5 類感染症　劇症型溶血性レンサ球菌感染症　1 名（40 代　女）

侵襲性肺炎球菌感染症　1 名（60 代　女）

梅毒　3 名（10 代　男　1 名、30 代　男　1 名、40 代　男　1 名）

第 25 週　2 類感染症　結核　11 名（20 代　女　1 名、40 代　女　1 名、60 代　男　1 名、70 代　男　5 名、80 代　女　1 名、90 代以上　男　1 名・女　1 名）

4 類感染症　レジオネラ症　1 名（40 代　男）

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○手足口病は、県全体で 126 名（定点あたり 1.22 → 2.33 人）の報告があり、前週より増加しました。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 87 名（定点あたり 1.67 → 1.61 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。

○感染性胃腸炎は、県全体で 448 名（定点あたり 8.54 → 8.30 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。

---

1. 日本紅斑熱は、第 23 週に 1 名の報告がありました。岡山県では、今年初めての発生報告となります。この感染症は、病原体（日本紅斑熱リケッチア）を保有するマダニに咬まれることで感染します。潜伏期間は 2～8 日程度で、発熱、発しん、刺し口が 3 大特徴です。作業やレジャーなどで野山や草むらに入るときは、肌の露出を少なくするなど、ダニに咬まれないように注意しましょう。県内の発生状況など、詳しくは、**「今週の注目感染症」**をご覧ください。

2. 手足口病は、県全体で 126 名（定点あたり 1.22 → 2.33 人）の報告があり、前週より増加しました。地域別では、備中地域（4.00 人）、真庭地域（3.00 人）、倉敷市（2.82 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。備北地域を除く全ての地域で患者が増加しており、特に備中地域（1.86 → 4.00 人）、真庭地域（0.50 → 3.00 人）、美作地域（0.83 → 2.67 人）では、前週より大きく増加しました。この感染症は、夏に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。感染している人の咳やくしゃみで、飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込むことや、便の中に排泄されたウイルスが、手指などを介して口に入ることによって感染します。症状は、軽度の発熱とともに、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に 2～3mm の水疱性発しんが出現するのが特徴です。近年では、2011 年、2013 年、2015 年に県内で大きな流行がみられています。今後の県内の発生状況に注意するとともに、患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒を励行するなど、感染予防に努めてください。

3. A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 87 名（定点あたり 1.67 → 1.61 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。過去 10 年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、岡山市（3.07 人）、倉敷市（2.09 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域を除く全ての地域で患者が報告されています。この感染症は、就学前から学童期の小児に多い感染症で、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、うがいや手洗いを行うなど、感染予防に努めてください。

4. 感染性胃腸炎は、県全体で 448 名（定点あたり 8.54 → 8.30 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、岡山市（13.00 人）、備北地域（10.75 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、**「感染性胃腸炎週報」**及び岡山県感染症情報センターホームページ『2016/2017 年　感染性胃腸炎情報』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↘	★	RSウイルス感染症	↗	★
咽頭結膜熱	↘	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★★
感染性胃腸炎	→	★★★★	水痘	→	★
手足口病	↗	★★	伝染性紅斑	↑	★
突発性発疹	↘	★★	百日咳	→	
ヘルパンギーナ	↗	★	流行性耳下腺炎	↗	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↘	★★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	→	★	クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	↓	＊感染性胃腸炎（ロタウイルス）については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加　↗：増加　→：ほぼ増減なし　↓：大幅な減少　↘：減少

大幅：前週比100%以上の増減　増加･減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）

空白：発生なし　★：わずか　★★：少し　★★★：やや多い　★★★★：多い　★★★★★：非常に多い

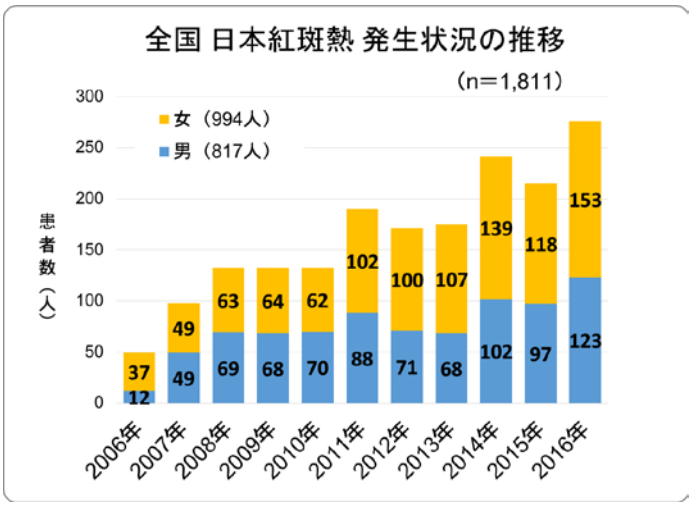
今週の注目感染症

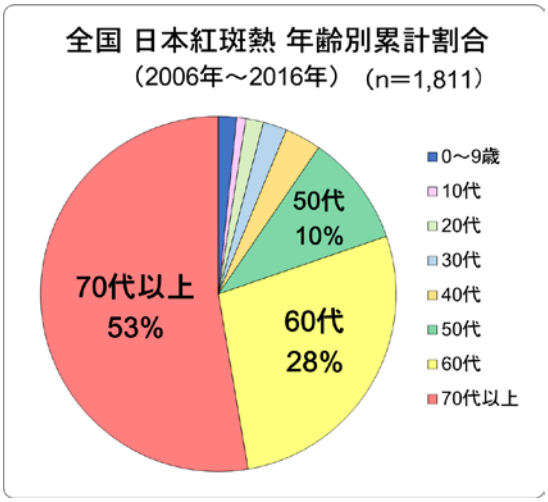
日本紅斑熱

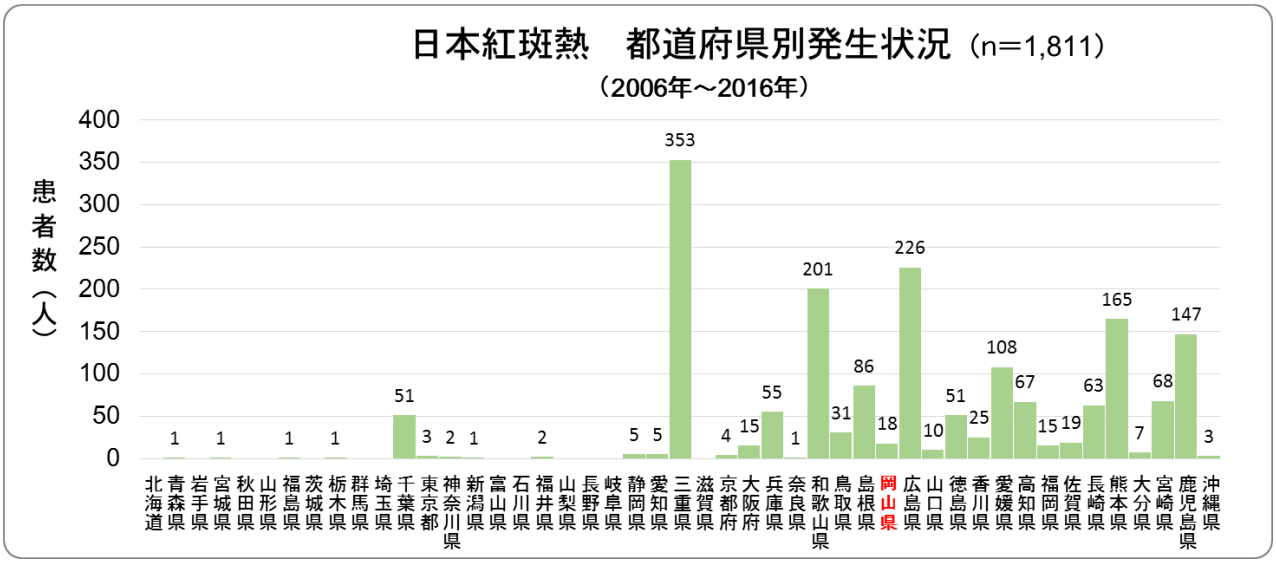
日本紅斑熱は、リケッチア・ジャポニカ（日本名：日本紅斑熱リケッチア）という病原体を保有するマダニに咬まれることで感染します。潜伏期間は、2～8 日程度で、頭痛、発熱、全身倦怠感を伴って発症します。つつが虫病と同様に発熱、発しん（手足から全身に広がる）、刺し口が 3 大特徴です。早期に診断し、適切な治療薬（テトラサイクリン系、重症例ではニューキノロン系の併用）を投与することにより予後は良好ですが、治療が遅れると重症化し、死に至ることもあります。

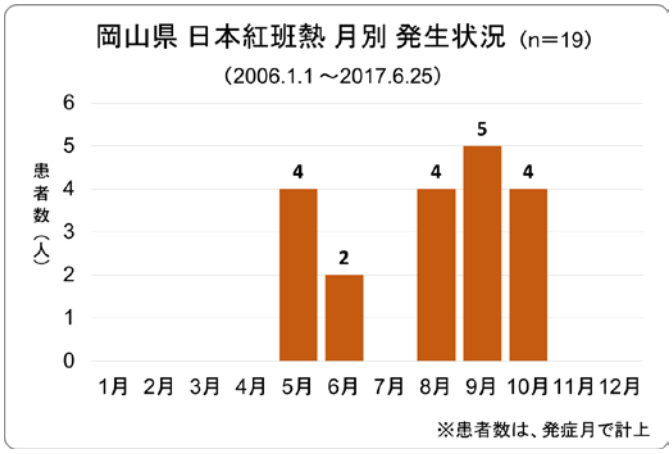
【発生状況】

2006 年～2016 年までに全国で発生した日本紅斑熱累計患者数は、1,811 例で、2014 年以降、200 人以上の患者が報告されています。年齢別累計割合では、70 代以上が半数以上を占めており、50 代以上で多くの患者が報告されています。発生地域は、西日本の太平洋沿岸が中心ですが、日本海側や東北地方でも、患者発生が確認されています。夏～初冬にかけて多く発生しますが、真冬を除いてほぼ 1 年中感染する可能性があります。岡山県では、2009 年 10 月に初めての発生があってから、累計報告数は 19 例となっています。









『日本紅斑熱』に注意しましょう。
（岡山県感染症情報センター）

日本紅斑熱（国立感染症研究所）

つつが虫病・日本紅斑熱　2007～2016 年
（国立感染症研究所）

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

フタトゲチマダニ
岡山県環境保健センター

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています。これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本紅斑熱、つつが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもいます。

春から秋（3～11 月）にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。

【予防のポイント】

◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。

◎服の上や肌の露出部分に、虫除け剤（ディートやイカリジンを含むもの）を噴霧しましょう。
（虫除け剤の子供への使用は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。）

◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。

◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。

◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。

◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。

◎ペットにもダニがつかないように、ダニ除け剤などで予防しましょう。

【マダニがついていたとき】　～マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません～

◎容易に取り除くことができる場合は、すぐに取り除いてください。その後、2 週間程度は、体調の変化に注意してください。なお、取り除いたマダニは、保存しておいてください。

◎容易に取り除くことができない場合は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。

【症状がでたとき】

◎野外活動の後、数日から 2 週間程度のうちに発熱・発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。また、取り除いたマダニを保存している場合は、医療機関を受診する際に持参してください。

ダニが媒介する感染症に注意しましょう。（岡山県感染症情報センター）

マダニに注意！（岡山県チラシ）

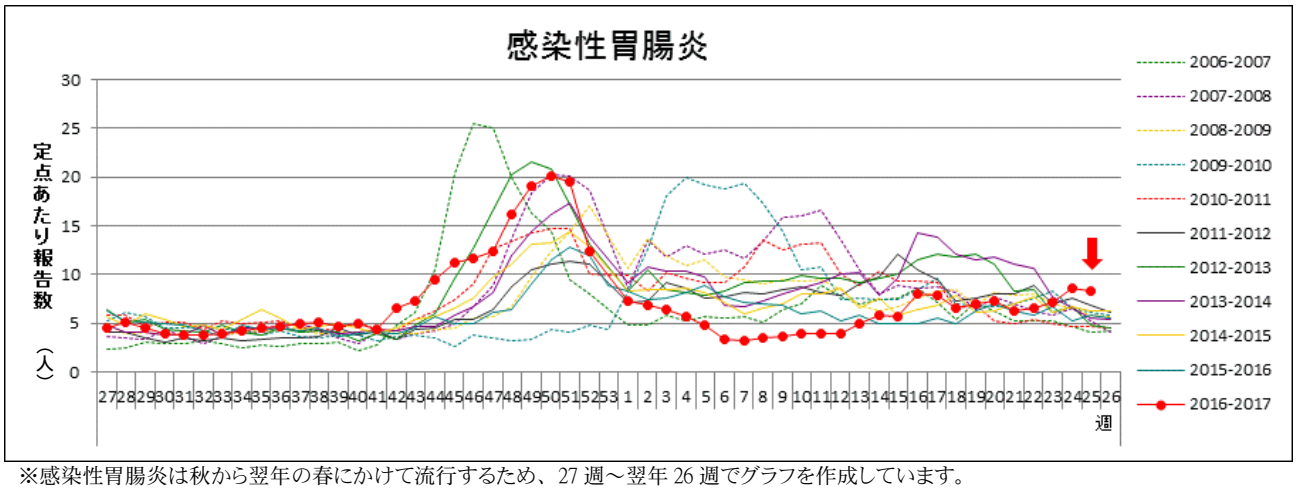
マダニ対策、今できること（国立感染症研究所）

2017 年 6 月 30 日

感染性胃腸炎週報　2017 年 第 25 週　（6 月 19 日 ～ 6 月 25 日）

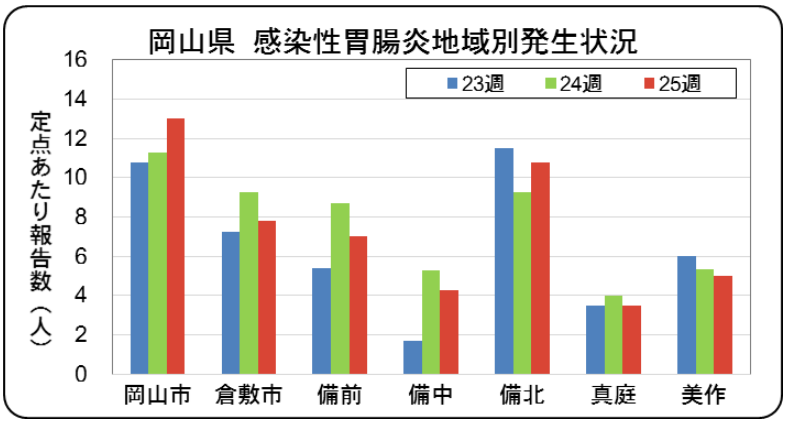
➢ 岡山県の流行状況

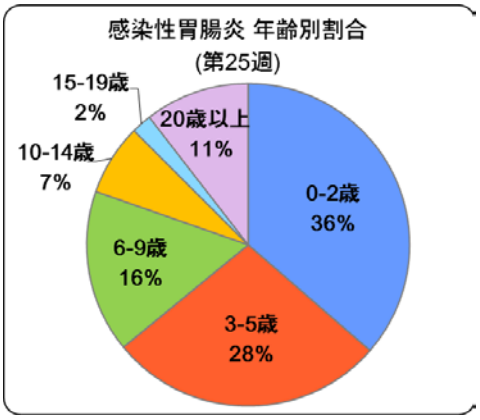
○感染性胃腸炎は、県全体で 448 名（定点あたり 8.30 人）の報告がありました（54 定点医療機関報告）。



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

◆地域別・年齢別発生状況





感染性胃腸炎は、県全体で 448 名（定点あたり 8.54 → 8.30 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、岡山市（13.00 人）、備北地域（10.75 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。第 25 週年齢別割合では、0－2 歳 36%、3－5 歳 28%、6－9 歳 16% の順で高くなっています。

例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎が増加します。特にトイレの後や調理・食事の前には、石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防に努めてください。

◆◆◆ 食中毒予防の 3 原則◆◆◆

➢ 「清潔」（菌をつけない）
- 調理前、食事前、用便後には、手をよく洗いましょう。
- まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄消毒を行いましょう。

➢ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）
- 生鮮食品、調理したものは、できるだけ早く食べましょう。
- 生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
  （生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。）

➢ 「加熱」（菌をやっつける）
- 加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- 特に、食肉等は中心部まで十分に火を通しましょう。
  （食肉の生食は避けましょう。）

食中毒予防の 3 原則（岡山県生活衛生課）
家庭でできる食中毒予防の 6 つのポイント（厚生労働省）

保健所別報告患者数 2017年 25週（定点把握） （2017/06/19～2017/06/25） 2017年6月29日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	16	0.19	3	0.14	1	0.06	8	0.53	–	–	–	–	–	–	4	0.40
RSウイルス感染症	3	0.06	3	0.21	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	31	0.57	7	0.50	1	0.09	12	1.20	6	0.86	1	0.25	1	0.50	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	87	1.61	43	3.07	23	2.09	10	1.00	1	0.14	–	–	1	0.50	9	1.50
感染性胃腸炎	448	8.30	182	13.00	86	7.82	70	7.00	30	4.29	43	10.75	7	3.50	30	5.00
水痘	25	0.46	9	0.64	11	1.00	–	–	–	–	1	0.25	1	0.50	3	0.50
手足口病	126	2.33	30	2.14	31	2.82	13	1.30	28	4.00	2	0.50	6	3.00	16	2.67
伝染性紅斑	2	0.04	1	0.07	1	0.09	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
突発性発疹	17	0.31	5	0.36	6	0.55	4	0.40	1	0.14	1	0.25	–	–	–	–
百日咳	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	44	0.81	5	0.36	19	1.73	2	0.20	5	0.71	2	0.50	3	1.50	8	1.33
流行性耳下腺炎	18	0.33	11	0.79	6	0.55	–	–	–	–	1	0.25	–	–	–	–
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	10	0.83	2	0.40	4	1.00	1	1.00	3	3.00					–	–
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	–	–	–	–					2	2.00	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–

（－： 0 or 0.00） （空白 ： 定点なし）

保健所別報告患者数 2017年 25週（発生レベル設定疾患） （ 2017/06/19～2017/06/25 ） 2017年6月29日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	16	0.19	3	0.14	1	0.06	8	0.53	–	–	–	–	–	–	4	0.40
咽頭結膜熱	31	0.57	7	0.50	1	0.09	12	1.20	6	0.86	1	0.25	1	0.50	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	87	1.61	43	3.07	23	2.09	10	1.00	1	0.14	–	–	1	0.50	9	1.50
感染性胃腸炎	448	8.30	182	13.00	86	7.82	70	7.00	30	4.29	43	10.75	7	3.50	30	5.00
水痘	25	0.46	9	0.64	11	1.00	–	–	–	–	1	0.25	1	0.50	3	0.50
手足口病	126	2.33	30	2.14	31	2.82	13	1.30	28	4.00	2	0.50	6	3.00	16	2.67
伝染性紅斑	2	0.04	1	0.07	1	0.09	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
百日咳	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	44	0.81	5	0.36	19	1.73	2	0.20	5	0.71	2	0.50	3	1.50	8	1.33
流行性耳下腺炎	18	0.33	11	0.79	6	0.55	–	–	–	–	1	0.25	–	–	–	–
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	10	0.83	2	0.40	4	1.00	1	1.00	3	3.00					–	–

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル２、レベル３に該当するものはありませんでした。

（－： 0 or 0.00 ） （ 空白 ： 定点なし ）

感染症発生動向調査　週情報　　報告患者数　年齢別　　（ 2017年　第25週　 2017/06/19～2017/06/25 ）

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	16	–	–	1	–	1	–	–	2	1	1	–	3	1	–	4	–	1	–	1	–

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	3	1	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	31	–	5	7	2	5	3	4	3	1	–	1	–	–	–
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	87	–	1	7	7	12	9	19	9	3	6	1	8	–	5
感染性胃腸炎	448	6	31	82	44	54	41	29	22	22	15	14	32	9	47
水痘	25	–	1	6	1	2	4	3	3	1	1	3	–	–	–
手足口病	126	3	12	52	26	15	5	6	5	–	1	–	1	–	–
伝染性紅斑	2	–	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
突発性発疹	17	1	4	10	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–
百日咳	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	44	1	2	11	14	6	3	3	2	1	–	1	–	–	–
流行性耳下腺炎	18	–	–	–	1	1	3	4	4	–	3	1	–	–	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
流行性角結膜炎	10	–	1	–	–	2	–	–	1	–	–	–	–	–	–	2	1	1	–	2

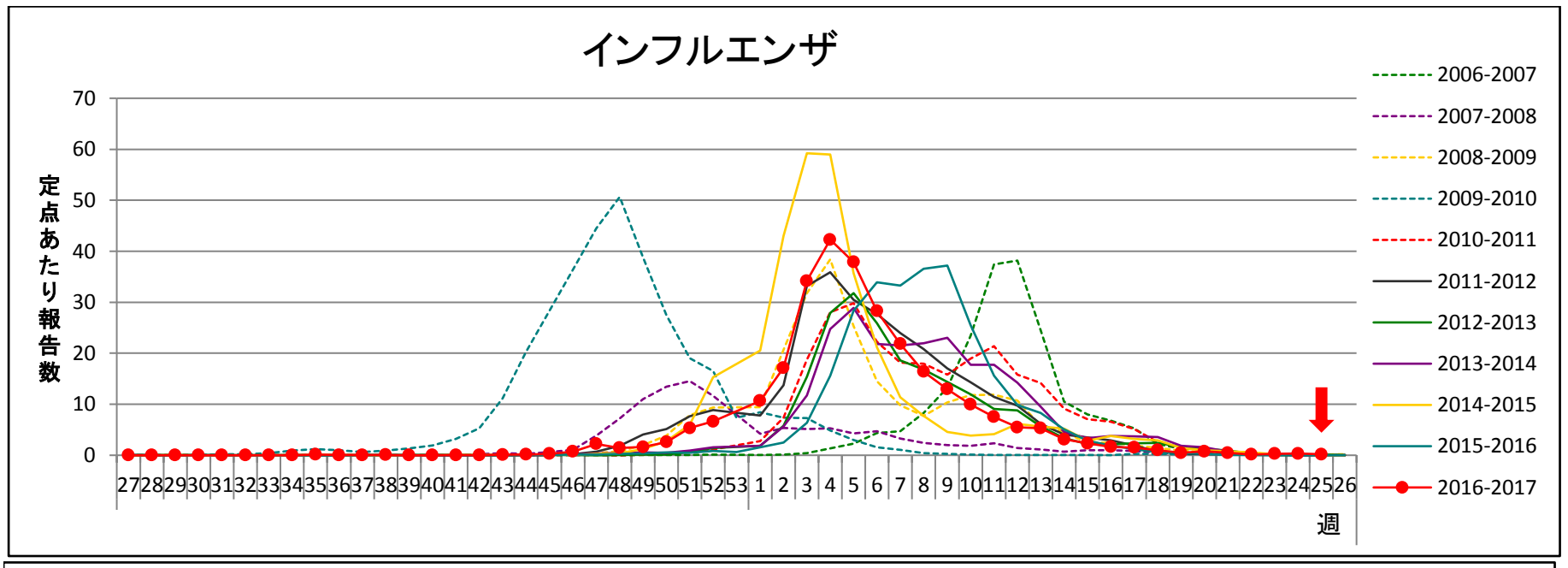
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	2	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

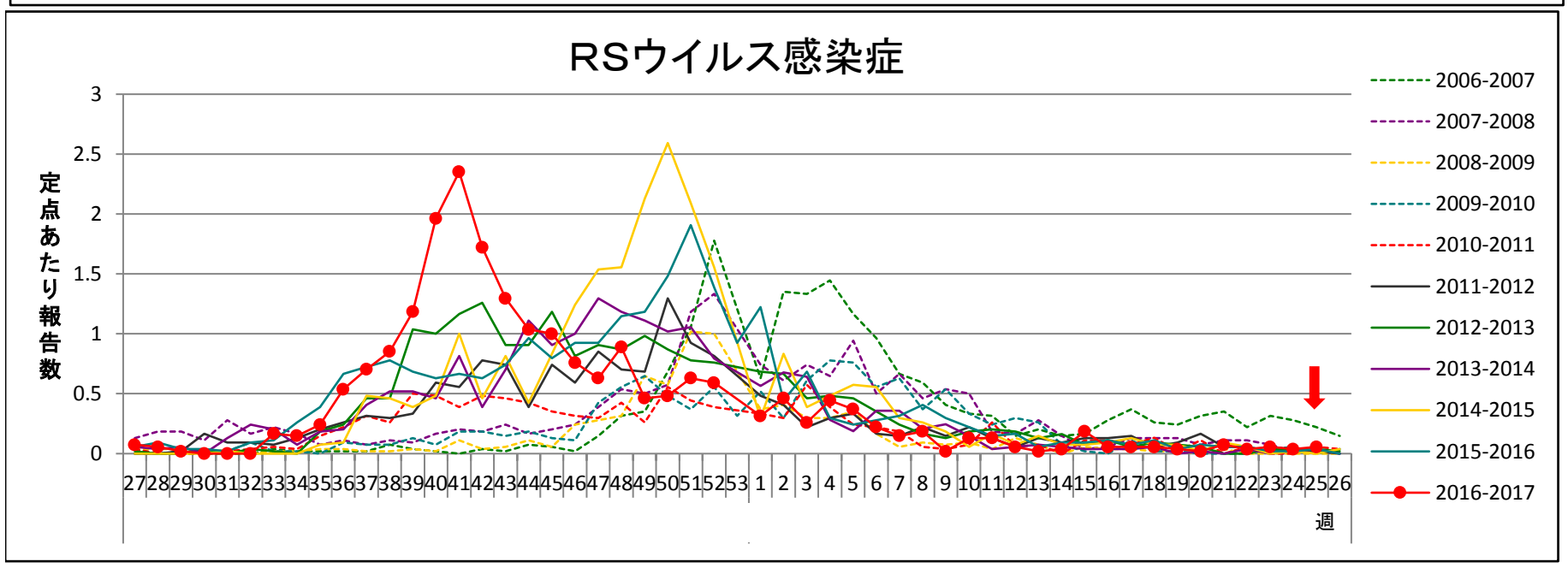
（ – ： 0 ）

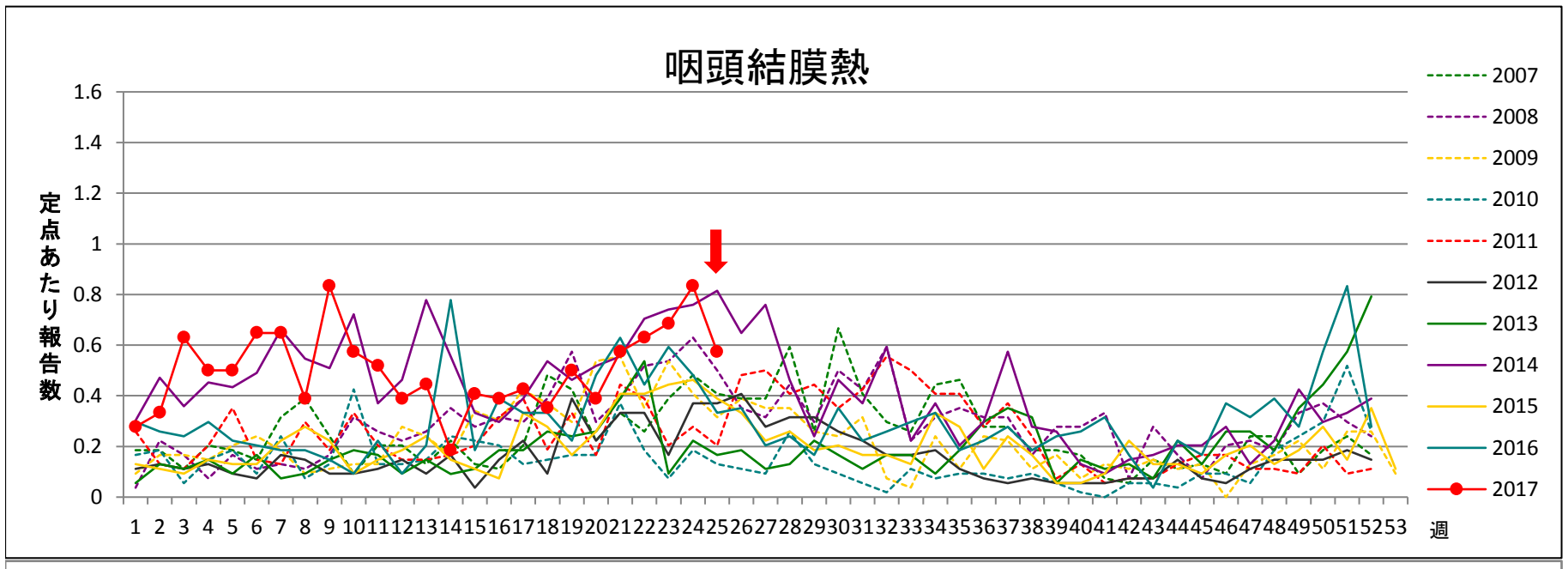
全数把握 感染症患者発生状況

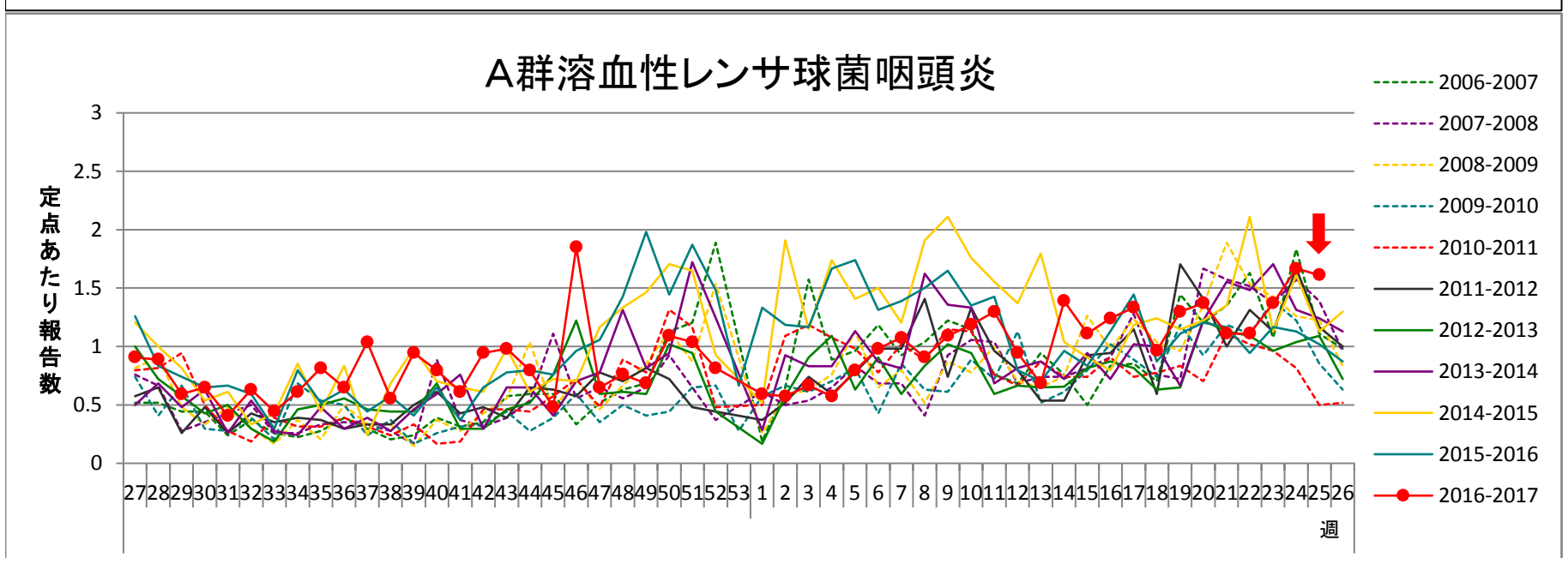
2017 年 25 週

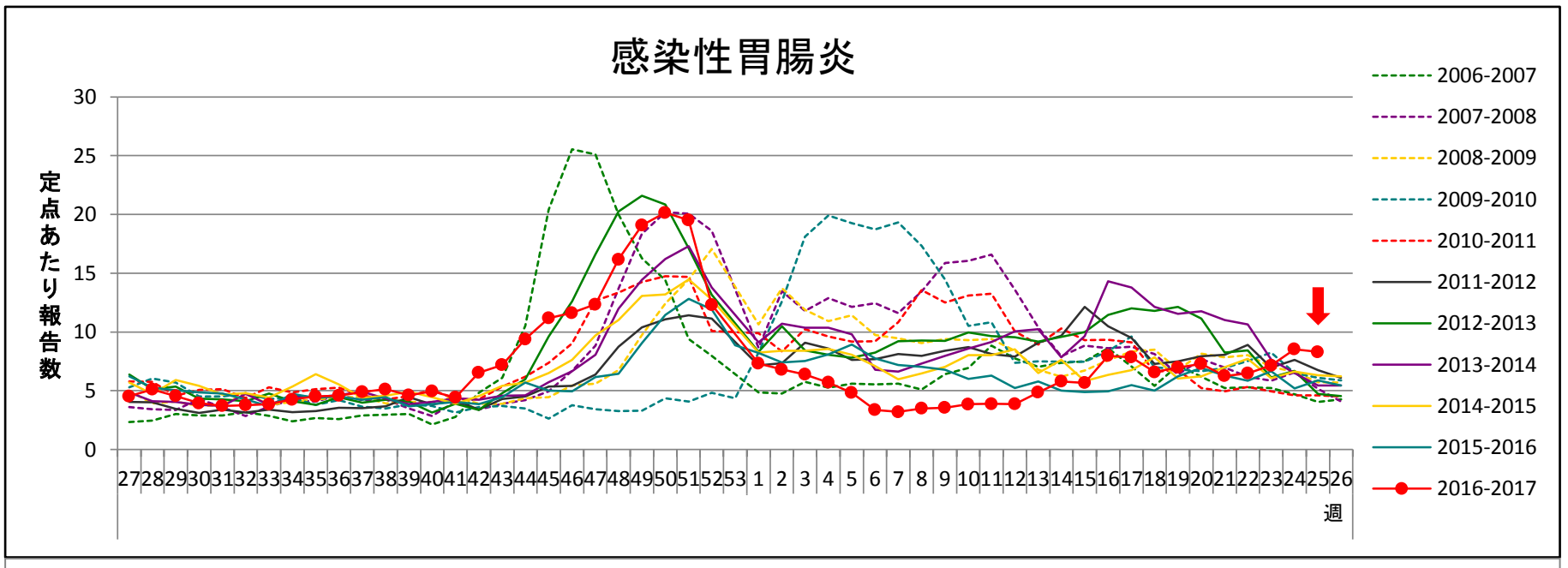
分類	疾病名	2017 今週	2017 累計	2016 昨年	疾病名	2017 今週	2017 累計	2016 昨年	疾病名	2017 今週	2017 累計	2016 昨年
一類	エボラ出血熱	–	–	–	クリミア・コンゴ出血熱	–	–	–	痘そう	–	–	–
	南米出血熱	–	–	–	ペスト	–	–	–	マールブルグ病	–	–	–
	ラッサ熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
二類	急性灰白髄炎	–	–	–	結核	11	167	311	ジフテリア	–	–	–
	重症急性呼吸器症候群	–	–	–	中東呼吸器症候群	–	–	–	鳥インフルエンザ（H5N1）	–	–	–
	鳥インフルエンザ（H7N9）	–	–	–		–	–	–		–	–	–
三類	コレラ	–	–	–	細菌性赤痢	–	1	–	腸管出血性大腸菌感染症	–	8	65
	腸チフス	–	1	–	パラチフス	–	–	–		–	–	–
四類	E型肝炎	–	1	2	ウエストナイル熱	–	–	–	A型肝炎	–	1	3
	エキノコックス症	–	–	–	黄熱	–	–	–	オウム病	–	–	–
	オムスク出血熱	–	–	–	回帰熱	–	–	–	キャサヌル森林病	–	–	–
	Q熱	–	–	–	狂犬病	–	–	–	コクシジオイデス症	–	–	–
	サル痘	–	–	–	ジカウイルス感染症	–	–	–	重症熱性血小板減少症候群	–	–	1
	腎症候性出血熱	–	–	–	西部ウマ脳炎	–	–	–	ダニ媒介脳炎	–	–	–
	炭疽	–	–	–	チクングニア熱	–	–	–	つつが虫病	–	–	2
	デング熱	–	–	1	東部ウマ脳炎	–	–	–	鳥インフルエンザ	–	–	–
	ニパウイルス感染症	–	–	–	日本脳炎	–	–	1	日本紅斑熱	–	1	4
	ハンタウイルス肺症候群	–	–	–	Bウイルス病	–	–	–	鼻疽	–	–	–
	ブルセラ症	–	–	–	ベネズエラウマ脳炎	–	–	–	ヘンドラウイルス感染症	–	–	–
	発しんチフス	–	–	–	ボツリヌス症	–	–	–	マラリア	–	–	–
	野兎病	–	–	–	ライム病	–	–	–	リッサウイルス感染症	–	–	–
	リフトバレー熱	–	–	–	類鼻疽	–	–	–	レジオネラ症	1	7	26
	レプトスピラ症	–	–	–	ロッキー山紅斑熱	–	–	–		–	–	–
五類	アメーバ赤痢	–	11	18	ウイルス性肝炎	–	4	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	–	4	28
	急性脳炎	–	3	11	クリプトスポリジウム症	–	–	–	クロイツフェルト・ヤコブ病	–	1	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	–	4	8	後天性免疫不全症候群	–	8	12	ジアルジア症	–	–	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	–	–	7	侵襲性髄膜炎菌感染症	–	–	–	侵襲性肺炎球菌感染症	–	23	32
	水痘（入院例に限る。）	–	1	3	先天性風しん症候群	–	–	–	梅毒	–	52	40
	播種性クリプトコックス症	–	–	2	破傷風	–	–	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	–	–	–
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	–	3	1	風しん	–	–	–	麻しん	–	–	–
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	–	–	–		–	–	–		–	–	–

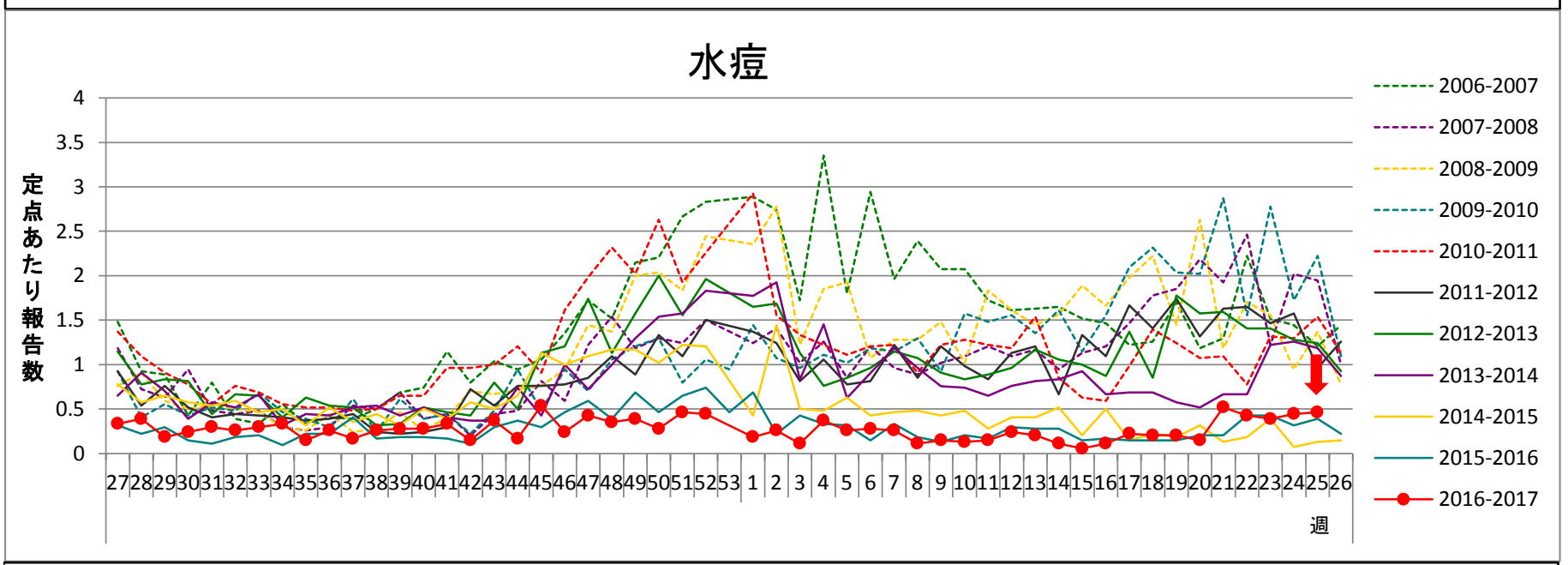

インフルエンザ
定点あたり報告数
週
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017

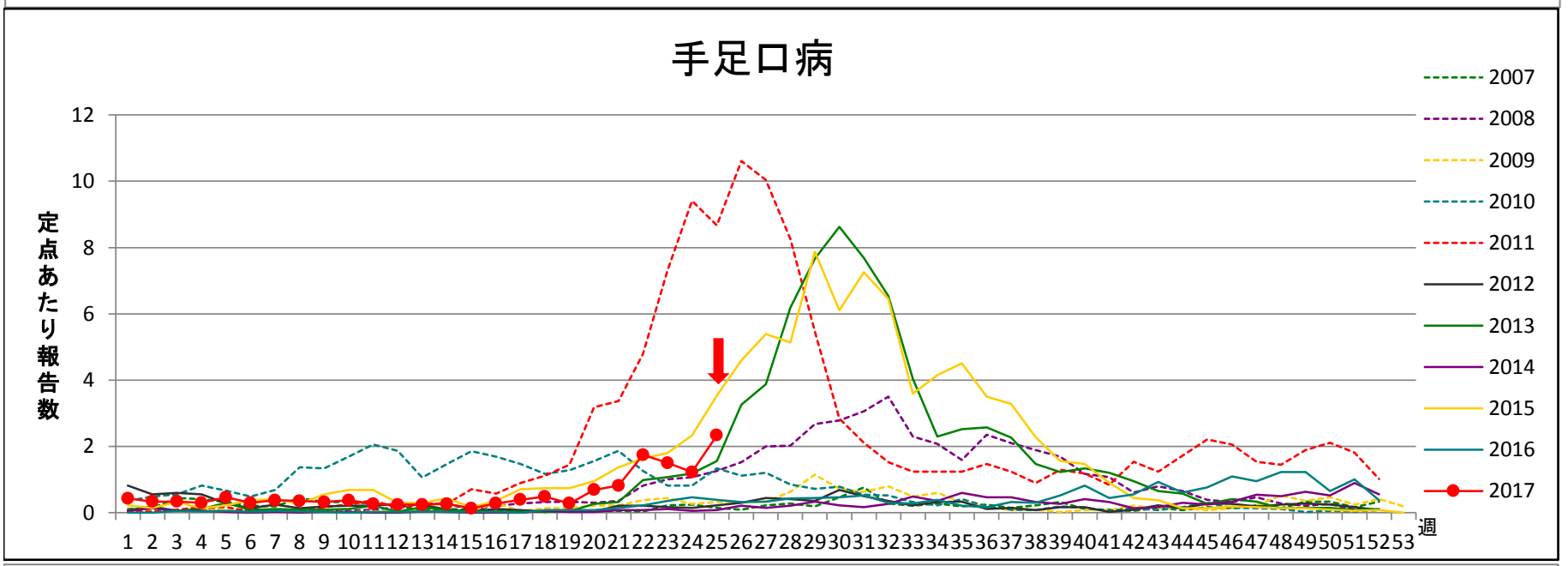

RSウイルス感染症
定点あたり報告数
週
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017

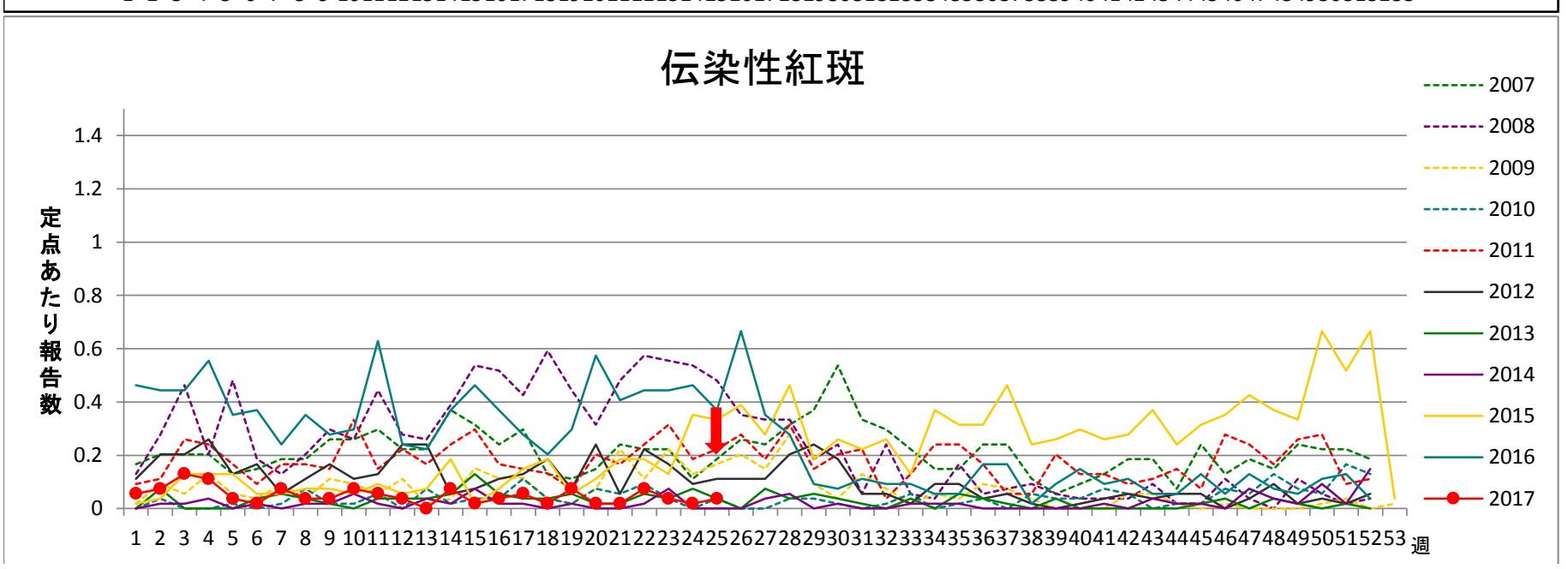

咽頭結膜熱
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

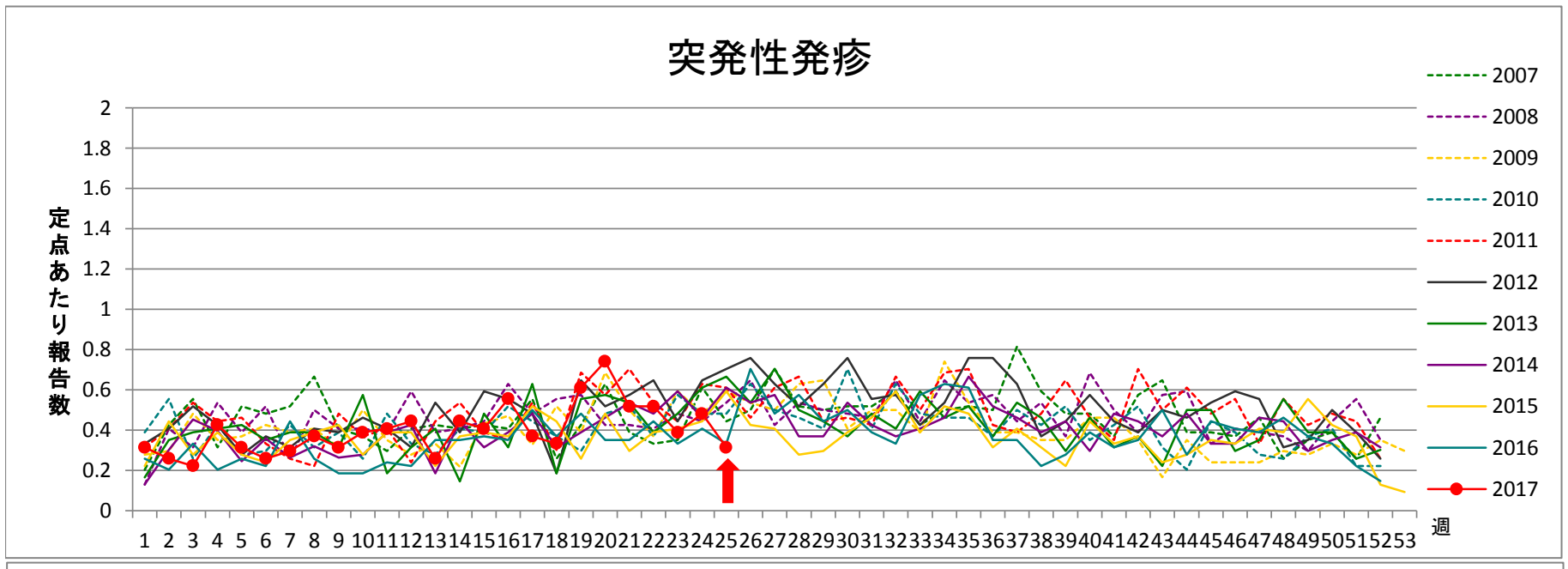

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点あたり報告数
週
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017

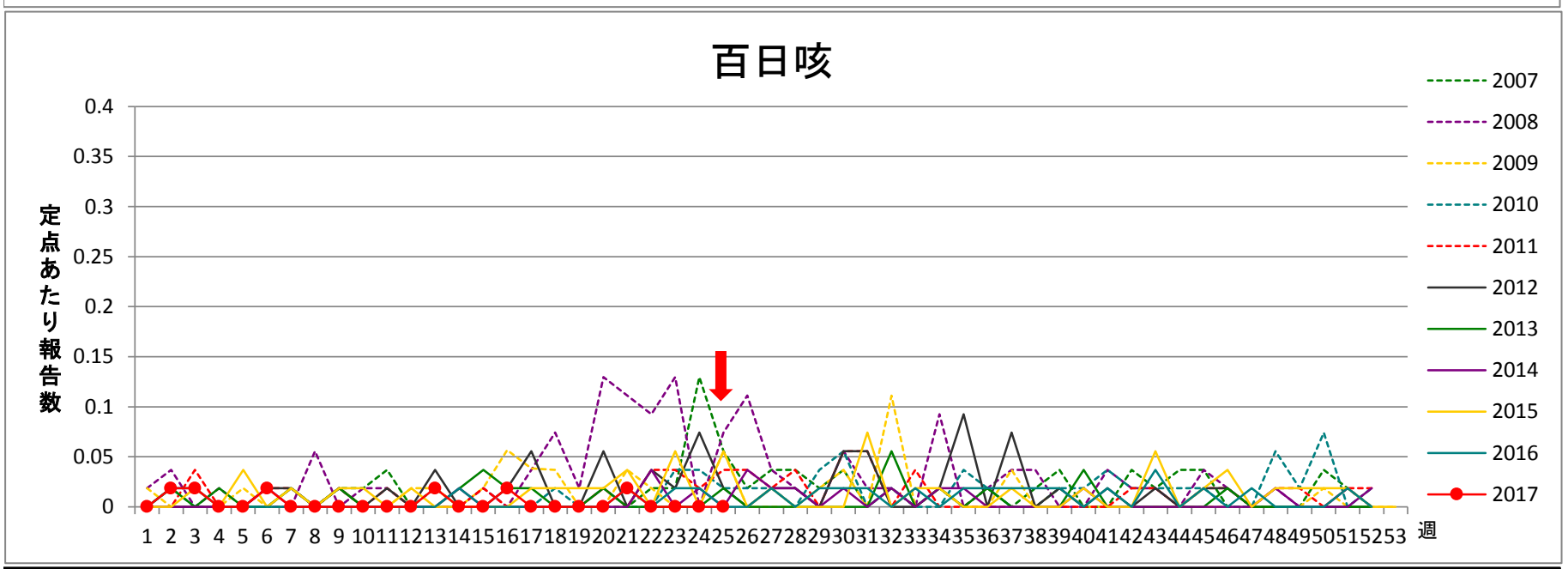

感染性胃腸炎
定点あたり報告数
週
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017

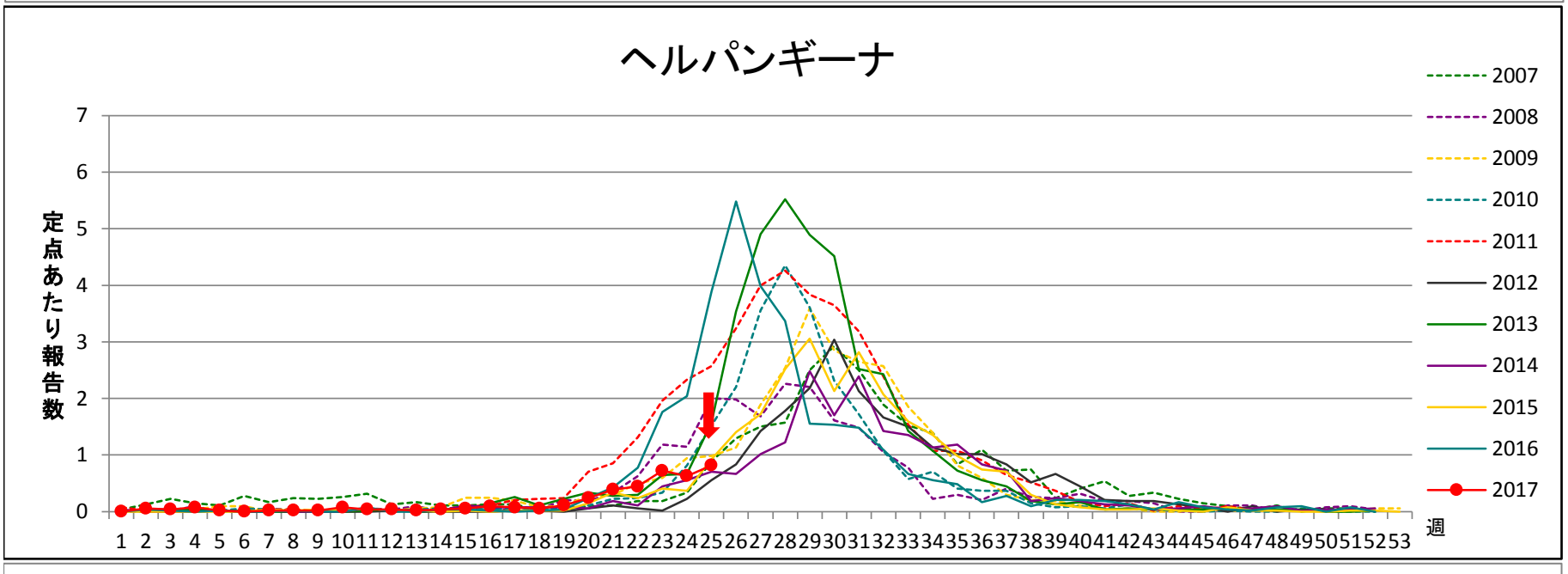

水痘
定点あたり報告数
週
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017

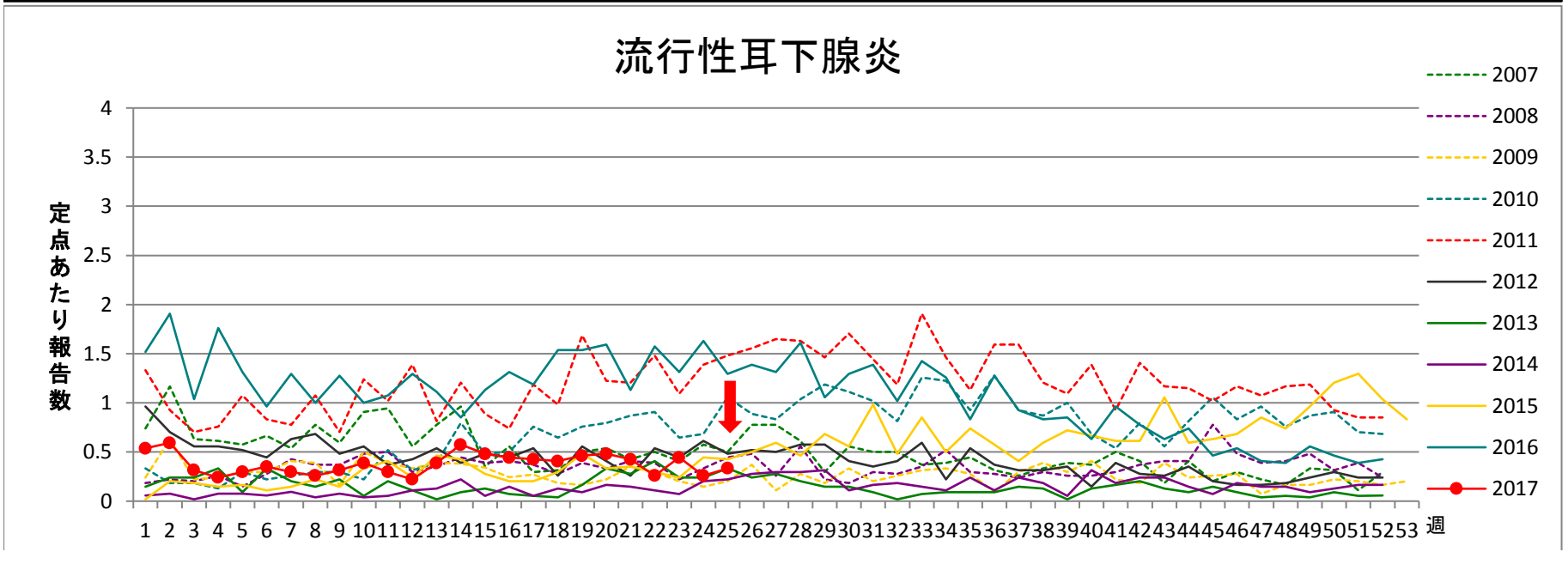

手足口病
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

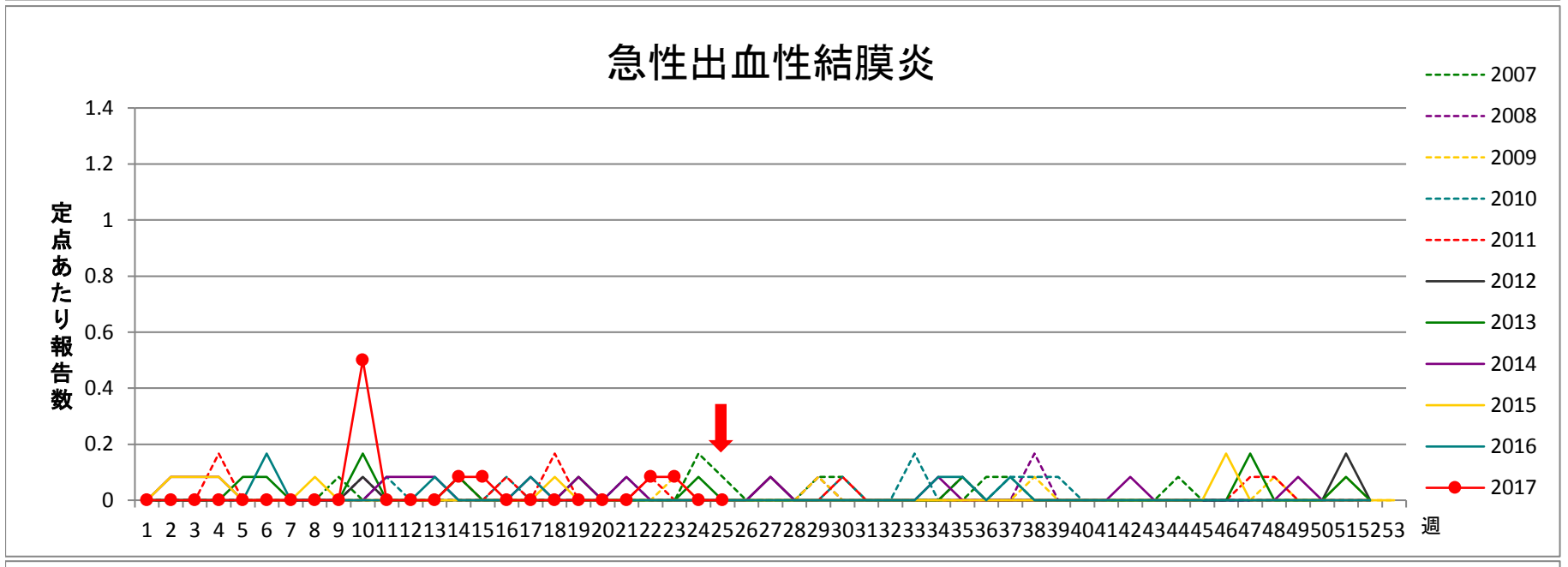

伝染性紅斑
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

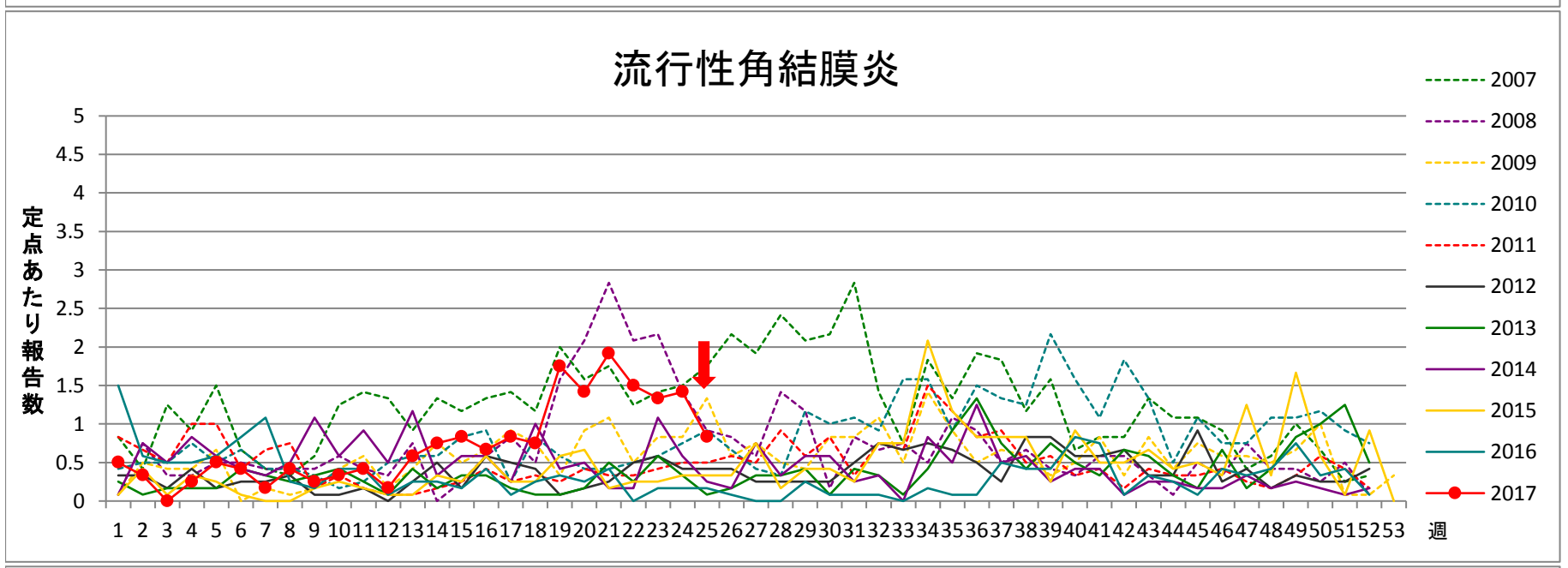

突発性発疹
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

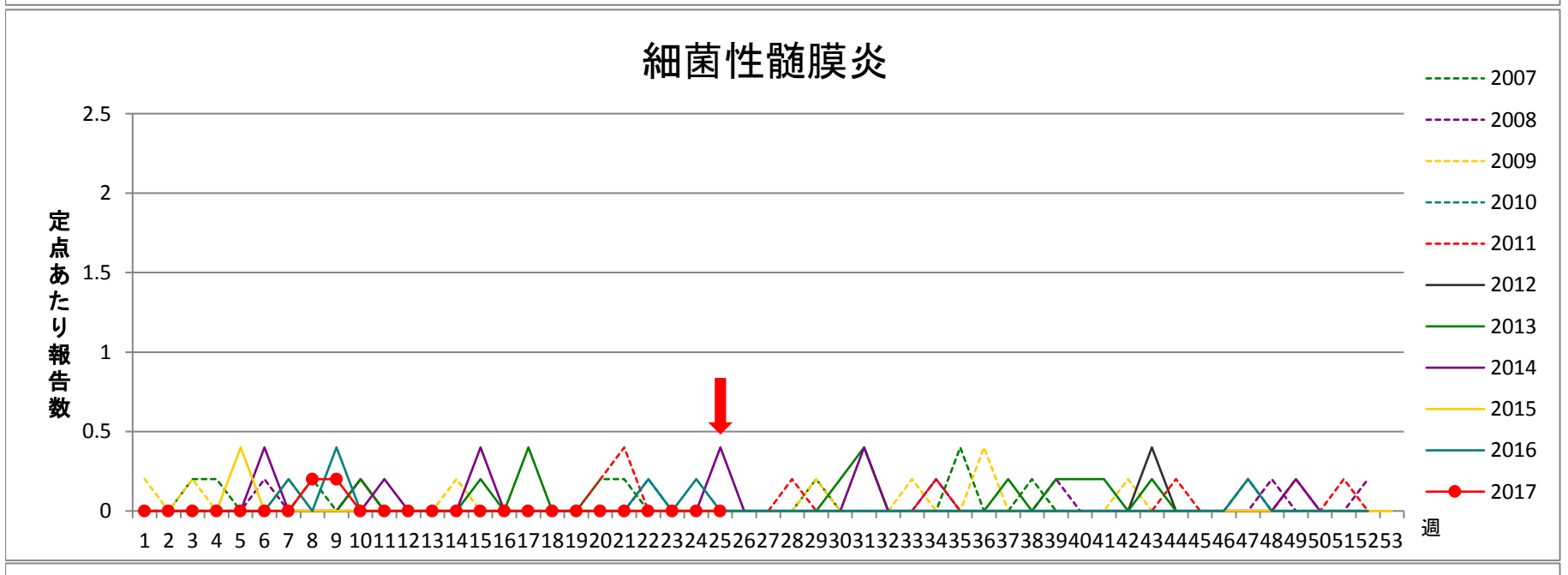

百日咳
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

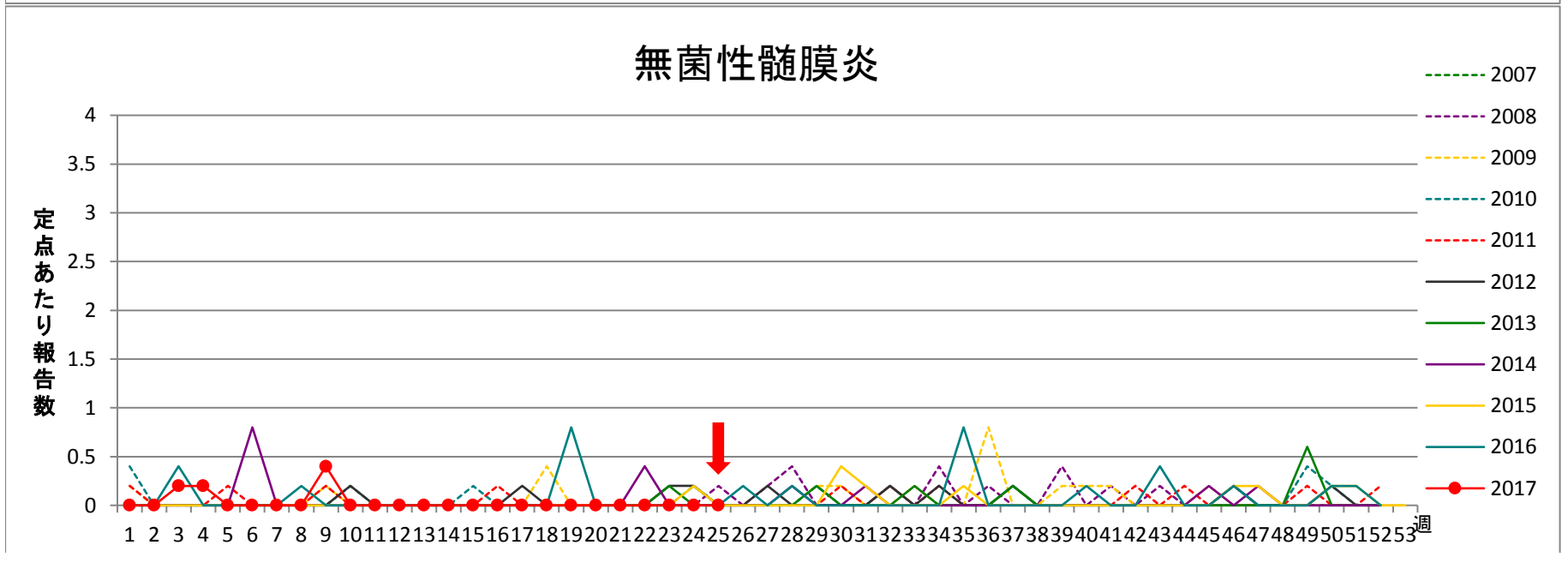

ヘルパンギーナ
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

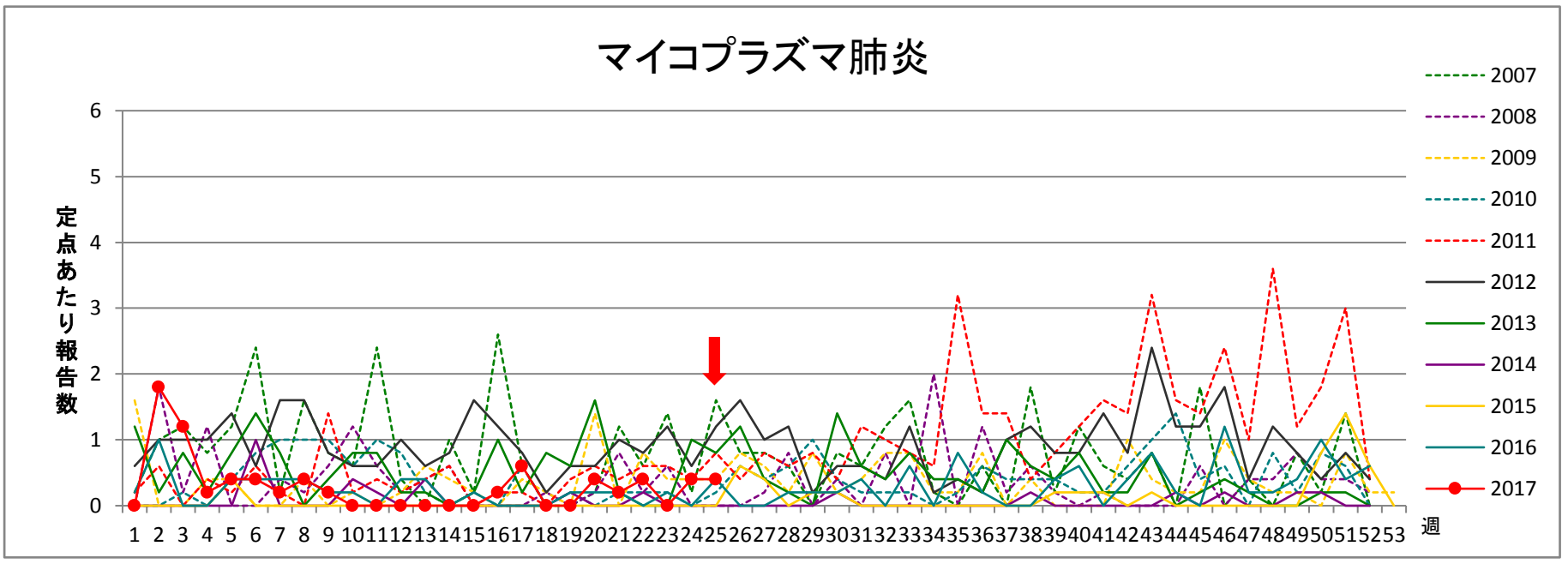

流行性耳下腺炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

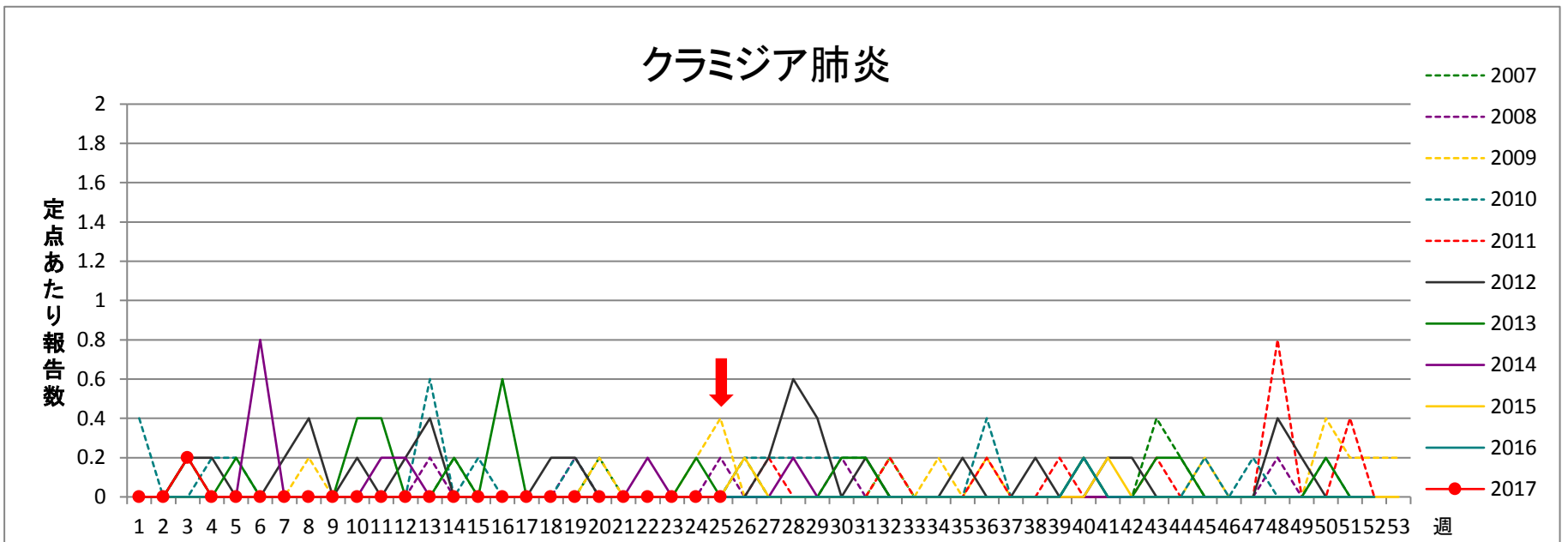

急性出血性結膜炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

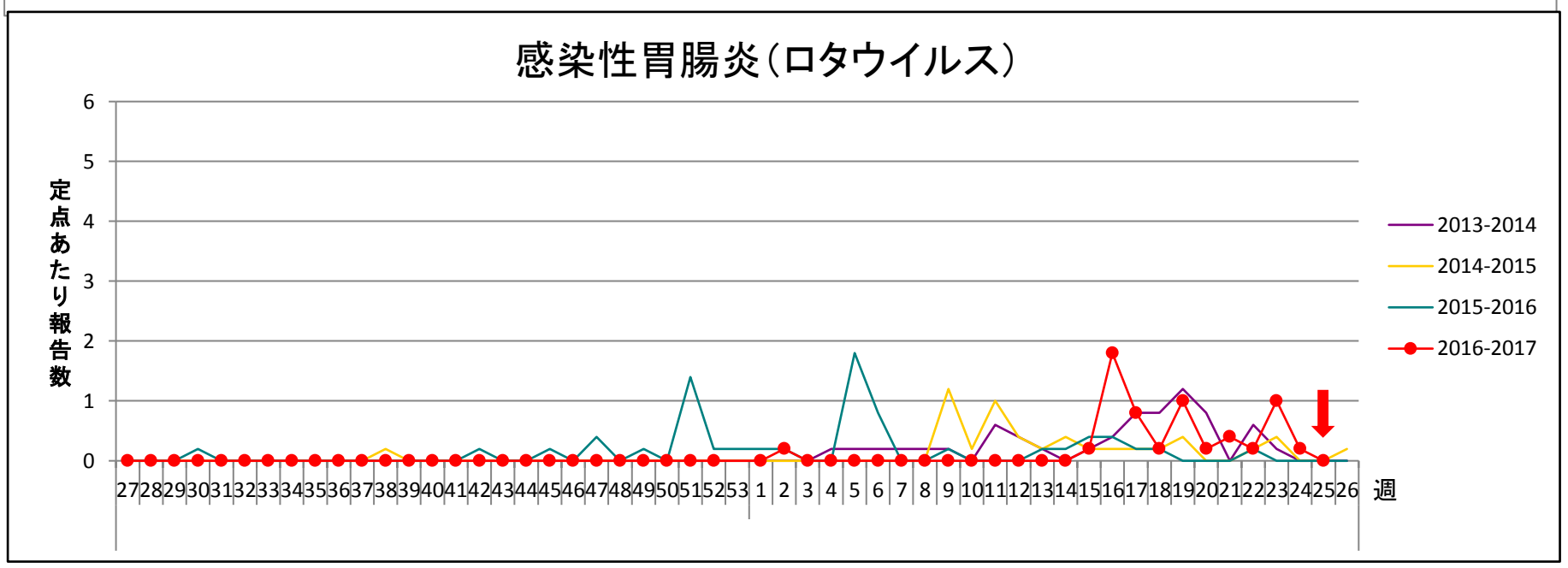

流行性角結膜炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


細菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


無菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


マイコプラズマ肺炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


クラミジア肺炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


感染性胃腸炎（ロタウイルス）
定点あたり報告数
週
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017